

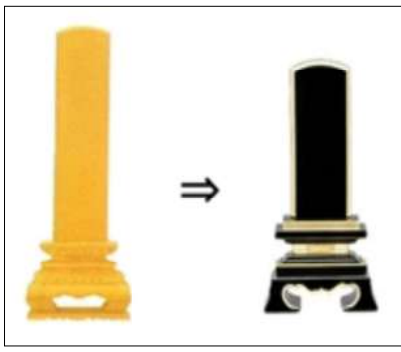
長徳寺便り

発行
時宗
不退山長徳寺
住職
渋谷真之

「位牌」と「法名」のおはなし

【位牌とは】

位牌とは、死者の戒名、法名を記した木牌のことです。用途別に分類すれば、葬儀の時に使用される白木の野位牌、四十九日の忌明け後に仏壇に祀られる本位牌（塗位牌、唐木位牌）、寺院内や寺院位牌堂で用いられる寺院位牌などがあります。



どで加飾した塗位牌、黒檀や紫檀などで作られた唐木位牌などがあります。

形式で分類すると、台座に札板が付いた板位牌、台座に板が数枚入った箱が付いている回即位牌（くりだしはい）などがあります。

位牌は、中国儒教で先祖祭祀の時に使用される位版いはん、神主しんしゅなどに起源があるとされます。

この儒教儀礼の影響を受けた禅宗が鎌倉時代日本に伝わり、それと共に位牌が日本でも使われるようになったといわれます。

本位牌には、戒名、没年月日、俗名、年齢などを記します。

本位牌は、四十九日までにするのが一般的です。

【法名とは】

法名とは元来、仏教者として守るべき生活や心の規範を受けた者に対して授けられる名前です。現在では亡くなってから法名が授けられるというのが一般的ですが、本来は生きていた間に戒を受け、仏教者としての生活を送ることが理想とされ、最近では長徳寺に於いて実際に生前に戒名を授けること「逆修」（生前法名）をされる方が増えてきております。

因みに戦国武将達はいつ戰場で命を断つかもしいないとの思いから、俗名を捨てて戒名を名乗ってききました。逆修は死後のものよりも生前に授かったほうが何倍も功德があり、危機を乗り越え寿命を延ばすものと信じられていた様です。例えば、甲斐の雄「武田信玄」は名を晴信といい、「法性院信玄」の法名を授かり。法性院は院号、信玄が法名です。院号は元来、天皇が退位した後に任んだ屋敷の名前から起ったもので、平安

平成二十六年年回忌表

一	周	忌	平成25年	逝去
一	三	回	平成24年	逝去
三	七	回	平成20年	逝去
十	三	回	平成14年	逝去
十	七	回	平成10年	逝去
二	三	回	平成4年	逝去
二	五	回	平成2年	逝去
二	七	回	昭和63年	逝去
二	三	回	昭和57年	逝去
三	三	回	昭和53年	逝去
三	四	回	昭和47年	逝去
四	四	回	昭和43年	逝去
五	十	回	昭和40年	逝去
五	百	回	大正4年	逝去

秋季彼岸法要案内

時代に嵯峨天皇が御所を「嵯峨院」と名付けたところから始まったとされます。法名の敬称になったのは、一寺院を建立した貴人の敬称に用いたのが起源とされます。従って本来は、相当の地位や身分、功績のあった人に与えられるものなのです。

九月二十日（土）午前十一時、長徳寺本堂に於いて秋季彼岸法要を修行致します。御申込みの方は、各家先祖代々及び年回忌供養等を、御担当寺院様へ御連絡下さい。又、皆様の墓地に古くなりました塔婆がございましたら、長徳寺墓地水汲み場に「古塔婆置き場」を設置しておりますので、お持ち頂き、お彼岸時のお墓の掃除に御利用下さい。

